

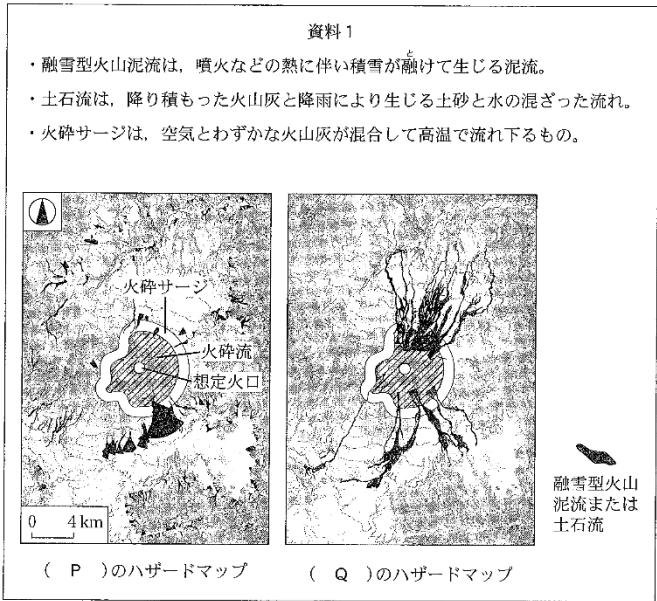


火山噴火によるハザードマップにおける火山泥流を扱った問題が出題。
積雪が融けて生じる泥流は谷筋に沿って流れることを理解できているかが問われている。

共通テスト

第3問 問6

問 6 持続可能な国土像を検討する上で、様々な自然災害の理解を深めることが重要である。次の資料1は、本州に位置する、ある火山の小～中規模の噴火によるハザードマップについてまとめたものであり、空欄PとQは、積雪期の融雪型火山泥流、無雪期の土石流のいずれかである。また、火山活動に関することながらについて述べた文章中の空欄マには、西側と東側のいずれかが当てはまる。積雪期の融雪型火山泥流に該当する記号と空欄マに当てはまる語句との組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 14



等高線の間隔は100 m。色の濃い部分ほど急斜面であることを示す。
自治体の資料などにより作成。

日本には多くの火山があり、様々な火山活動の影響範囲はそれぞれ異なる。粒径の大きな噴出物が火口の近くに堆積する一方で、火山灰は遠方まで運ばれる。資料1の火山のように、本州における火山の大規模噴火では、火山灰は火口から(マ)に降ることが多く、降灰範囲が火口から数百 km に及ぶこともある。

火山災害では火山周辺地域での影響が大きいが、遠方の地域においても影響を受ける。様々な火山活動の影響を理解することが災害対策に役立つ。

	①	②	③	④
積雪期の融雪型火山泥流	P	P	Q	Q
マ	西側	東側	西側	東側

河合塾

第2回 全統共通テスト模試
地理総合、地理探究 第3問 問6

問 6 次の図4は、日本の火山のうち、噴火が想定されているある一つの火山の陰影起伏図であり、L～Nは、この地域で準備されているハザードマップに示された、火砕流、火山泥流(土石流を含む)、溶岩流のいずれかの到達予想範囲を示したものである。図4中のL～Nと用語との正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

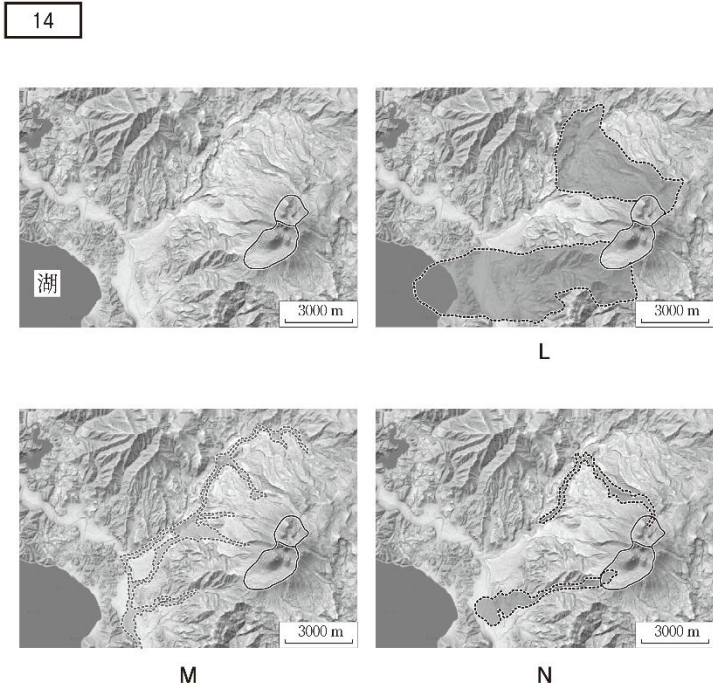


図4中の実線は、噴火が想定されているカルデラの範囲を示した。
自治体の資料とカシミール3Dにより作成。

図4

	①	②	③	④	⑤	⑥
L	火砕流	火砕流	火山泥流	火山泥流	溶岩流	溶岩流
M	火山泥流	溶岩流	火砕流	溶岩流	火砕流	火山泥流
N	溶岩流	火山泥流	溶岩流	火砕流	火山泥流	火砕流

共通テストでは、火山噴火によるハザードマップを用いて、積雪期の融雪型火山泥流と無雪期の土石流の判定、及び本州における火山の大規模噴火に際して火山灰がどの方角に降ることが多いか、について出題された。第2回共通テスト模試「地理総合、地理探究」では、同じく火山のハザードマップを用いて、火砕流、火山泥流（土石流を含む）、溶岩流のいずれかの到達予想範囲について出題していた。両問ともに「火山泥流は谷筋に沿って流れる」という理解を前提として解答する点において共通している。